

「賑わいの空間」から「静粛な空間」への グラデーションを意識した学修環境を整備

図書館（1号館、2号館、図書館ラーニングcommons）



「賑わいの空間」図書館ラーニングcommons 3階（左）、「ニュートラルな空間」1号館（改修予定）（右上）、「静粛な空間」2号館（右下）

【ポイント】

「賑わいの空間」から「静粛な空間」への グラデーションを実現

既存施設と増築部分の一体的な計画

- 2号館を改修し、個別学修用のブースを配置した「静粛な空間」を整備。
- 図書館ラーニングcommonsを増築し、学生が主体性を持ち個別学修、グループ学修など学修形態に応じて利用できる環境及び飲食可能なラウンジ等の「賑わいの空間」を整備。
- 1号館は、2号館の「静粛」、図書館ラーニングcommonsの「賑わい」をつなぐニュートラルな空間として運用。



配置図とエリアのゾーニング図

学内の必要座席数の実現に寄与

- 大学の試算目標約 2,600 席（学部学生数の約 35%）に対し、図書館で約 900 席（整備により約 126 席増）の学修スペースを確保。

フロアごとの雰囲気に変化を与える 什器等の選定

- 図書館ラーニングcommons内でも、集中して作業できるよう長方形のテーブルが並ぶ2階、自由に活発な活動ができるよう勾玉型のテーブルやソファ等が置かれている3階と、什器等により雰囲気に変化をもたせている。



図書館ラーニングcommons 2階
3階に比べ、自然と集中して作業に取り組める雰囲気になっている

整備による効果

多様なニーズへの対応による 利用増加

- グループ学習室、セミナー室等で、授業で出された課題について複数人でプロジェクトを使いながら議論する活動が増加。
- ラーニングcommonsで、PCを利用したレポート作成やディスカッションが増加。
- 個別学修、グループ学修、セミナーなど学修形態に応じて利用できる環境の整備により、利用者の多様なニーズに対応。



グループ学習室でのグループ活動

整備の背景・目的

- キャンパスマスタープラン 2012 及び、埼玉大学強化戦略の一部として図書館利用環境の充実が位置づけられた。
- 学修活動における図書館利用に関するアンケート調査の結果を踏まえ、知の創造活動の拠点となる大学図書館を創設する計画が 2011 年より始められた。
- 設計は、アンケート結果に加え、以下のような教員、学生の意見を取り入れて進められた。
 - ・「図書館会議」：図書館運営に関する日常的な会議体
 - ・「図書館へ一言」：普段から収集している学生の意見書



外観
既存の図書館 1 号館前面のエクステンションスペースに増築

更なる展開

学生スタッフによるサポート

- 図書館ラーニングcommonsには、「サポートデスク」が設置されている。
利用者のサポートについては、これまで図書館事務職員が担ってきたが、今後、大学院生によるラーニングアドバイザーの採用や学修相談（理系・文系）等の運用も検討している。

利用を促す広報活動

- グループ学習室やセミナー室の利用について、利用を促すアナウンスや、新入生向け利用ガイダンス等の充実を図り、授業外学修での利用につながるよう検討を進める。
- 今後、アクティブラーニングを取り入れた授業での利用も想定しており、教員向けのアナウンスの強化にも取り組む。